

褥瘡対策チーム
2病棟看護師
川村 美和



褥瘡対策チームは年間目標を<褥瘡0>とし、活動してきました。取り組みとして褥瘡予防グッズの充実、(体位変換枕2種類30個購入)、週1回の褥瘡廻診に基づき、個別の処置、除圧方法を話し合いながら日常生活の看護援助を行うと同時に、皮膚状態の観察をしてきました。(その都度スタッフに情報提供、共有を行う)その結果、スタッフの意識が向上し、皮膚状態の変化があれば褥瘡委員や看護師への報告が速やかにできるようになりました。その事により皮膚トラブルの早期発見、治療が行え創悪化が防げるようになりました。今後の課題として現在入浴は1週間に1回ですが、それを2回入浴できるようにできたらと考えています。どのようにしたら実現できるか話し合いをしています。今後も<褥瘡0>を目指し活動して行きたいと思っています。

感染対策チーム
5病棟看護主任
大崎 浩徳



平成28年6月の機能評価受審に向けて、エプロン・グローブなどの个人防护用具ラック(PPE)を、2・3病棟は各病室、5病棟は開放病棟の病室に設置をしました。ポータブルトイレや吸引器の洗浄ブラシは毎月月初めに交換し、スネークチューブの交換は、2ヶ月に一回の交換に統一しています。11月には高知赤十字病院の感染管理認定看護師による院内ラウンドがありました。それを受けて、包交車は清潔な物品と不潔な物品が混在するので、包交車は使わず、処置ごとに使用する物品だけ準備した処置セットを持って行くように変更になりました。来期の目標は清掃マニュアルがないので、各病棟で確認や聞き取りを行い、清掃マニュアルの作成を行っていきたいと思っています。

摂食・嚥下チーム
3病棟看護主任
豊永 広恵



摂食・嚥下チームでは、食事介助のマニュアル改訂と、平成28年10月に当院で開催された四国・摂食嚥下研究会に、5病棟から「精神科病棟における摂食機能療法の導入 諦めなかった経口摂取へのアプローチ」の発表を行いました。来年度は徳島で開催予定となっていますので、一つでも発表できればと思っています。食事介助のマニュアルについては、助手さんから食事介助に対する不安の声があがってきたためアンケートをとり、その内容に沿ったマニュアル改訂を行い助手さん対象に研修も行いました。食事介助のマニュアルを周知徹底し、活用したいと思っています。来年度のチーム会としては、口腔ケアに注目して検討する事と、お食事廻診をもっと充実していけたらと考えています。

医療機器チーム
3病棟准看護師
岡村 二三代



平成28年度医療機器チームは、感染面から処置台廃止を検討し、3病棟は廃止、2・5病棟では処置の頻度や処置変更が多く継続中となっています。機器洗浄業務が外部委託のための機器の名称を分かりやすくする取り組みは、まだできておらず次年度への課題となりました。使用済機器洗浄時のゴーグル、エプロン、マスク着用は今後マニュアルが守れるよう引き続き取り組んで行きたいと思っています。その他の取り組みとして、輸液セット全てが“ニプロ”に統一することができ患者様の状態に応じたセットを使用する事で、平成28年11月～平成29年1月の3ヶ月間で約20万円のコスト削減に繋がっています。平成29年度もコストと効果のバランスを検討しながら取り組んで行きたいと思っています。

第20回 平成28年度高知県精神科総合研究会

高知会館 H29.3.10(金)

「認知症看護とその他の精神疾患が混在した病棟における対応と課題」
～アンケートによる実態調査を通して～

5病棟看護師 小松 匡輔



第20回高知県精神科総合研究会が高知会館で開催されました。

当院からは『認知症看護とその他の精神疾患が混在した病棟における対応と課題～アンケートによる実態調査を通して～』の議題で発表しました。

まず、発表までのタイムスケジュールを立案し、いざ開始しましたが、アンケート作成から精神科病院への郵送、返信からの集計とやらなければいけないことが次々と増えて全然時間が足りませんでした。スケジュール上では完璧なはずでしたが・・・しかし、看護部長をはじめ、師長・主任・スタッフの理解と協力が

あり、なんとか間に合わすことができました。

本研究に取り組むことで、自身の認知症患者の理解も深まり、今後の課題や取り組みも見えてきました。また、病棟の看護師も認知症看護に対して、少しは意識が変わったと思います。これから精神科だけでなく、一般病棟にも認知症患者が増えてくることは確実です。認知症初期集中支援チームを担う南国病院の名に恥じない看護を提供していきたいと思います。

本研究に参加、協力して頂いたスタッフの皆さん、また発表の機会を与えて頂いたことに心から感謝いたします。



「医療ガス講習会」

四国アセチレン工業(株)
所長代理 榎田正利氏

南国病院本館 多目的ホール

H29.1.31(火)



医療安全対策室 臨床工学技士 森本 直樹

今年度も四国アセチレン工業株式会社の榎田さんにお越しいただいて医療ガスの取り扱いについて研修会を行いました。酸素ポンベの基本的な取り扱いや、酸素ポンベの劣化によって起きた事故事例など、このような機会でないといけない内容で、非常に参考になりました。酸素ポンベの劣化による事故事例が紹介されていたので、今回は研修会の後に、酸素ポンベのラウンドを一緒行って頂くことにしました。把握していない酸素ポンベが眠っていないか、古くなっている酸素ポンベがそのままになっていないか、酸素ポンベの交換時期の目安などについて教えて頂きました。実際行ったラウンドで、院内配管酸素の予備として設置しているマニュアルドシステムの酸素ポンベが比較的古いということが判明し、施設管理者と相談し、後日交換を行いました。こういった事に気付く事ができ、非常に効果的な研修会だったと思います。今後も教えて頂いたことに注意しながら、適切に日々の管理を行っていきます。

